

かながわ子ども教室

ニ ュ ー ス 第97号

かながわ子ども教室

松下 恵造

新型コロナウイルス感染者の発生に関して、2022年度の第7波～第8波に続いて2023年度も第9波～第10波が継続しましたが、教室開催先と共に感染防止への配慮を継続したことおよび当会会員の皆様の努力により、大きな影響を受けることなく活動することができました。3月度の教室開催は予定通り11回の見込みで、2023年度の教室開催数は107度（114回）が見込まれます。これは2023年度基本方針で目途とした最低目標の110度（115回）にかなり近い開催数となり、また2022年度の教室開催実績（118回）とほぼ同等レベルです。

2月から2024年度の基本方針と予算・計画を作成する時期ですが、基本方針については「年間を通して教室開催の平準化を図ることにより、年間開催数で最大19度の増加を目指す」ことにします。具体的には、① 7月、8月は20度/月以下とする。② その他の月は5度/週以下とする。③ 上記①、②を前提として、7月、8月以外の閑散期（5、6、9、10、12月）での開催数を増加させる施策を入れることにより、目標の年間110～126度（113～129回）を目指します。

川崎市青少年フェスティバルは3月10日にとどろきアリーナにて開催され、「ぶんぶんゴマ」と「雲づくり」の2教室で参加しましたが、詳細は本ニュース5月号で報告いたします。

「かながわ子ども教室」の会員数は、昨年10月23日に櫻田さん（S33年生れ）、1月6日に尾山さん（S32年生れ）が入会されましたが、1月19日に羽佐田さんが急逝され、3月11日に大濱さんが退会されましたので、37名のままとりました。

羽佐田さんの「かながわ子ども教室」発足時のご貢献については、岡田会員から送付いただいたメールの内容を要約してあらためてご紹介します。

・・・「ダイヤかながわ交流会」三代目の代表（2003年～2006年）になった羽佐田さんは「交流会」の在り方として会員同士の懇親の場だけではなく独自の社会貢献活動の主体にもなるべきだと考えていました。丁度「交流会」が最初に取り組んだ社会貢献活動「（高齢弱者）の外出支援」が軌道に乗って離れて行った時だったので、では次に何をやるかと同じ思いの新谷副代表（2022年12月ご逝去）と語らって「外出支援」から解放されていた「行動派」近藤啓さんを入れて三人で相談を始めたのでした。そして着想したのが「子どもに科学を教える会」の立ち上げ（2004年8月に第1回「子どもの科学教室」を開催）だったのです。羽佐田さんとそれに同調して一緒にテーマを考えた新谷、近藤両氏がいなかったら今の「かながわ子ども教室」は存在していま

せん。・・・また、羽佐田さんは第一回 DAA 運営委員会（1999年5月開催）にダイヤかながわ
交流会初代委員として出席しています。・・・羽佐田さんのご冥福をお祈りいたします。